

<授業実践1>「論拠を使って議論しよう」（現代の国語 第2学年 2学期）

1 実践にいたる背景

「現代の国語」は、その目標に「実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする」とあるように、社会において実用的な知識や技能の習得を目指すものである。これは、文化への理解や表現を味わうことを主とする「言語文化」とは、大きく異なっている。

また、「話すこと・聞くこと」の配当時間が多く、重視されている点も「言語文化」との相違点である。しかしながら、「話すこと・聞くこと」は「読むこと」「書くこと」に比べ、実践や評価の方法が分かりにくいという課題もある。

以上のことから、今回は「話すこと・聞くこと」の技能を習得するための授業を実践した。具体的には、①「話すこと・聞くこと」の枠組みとして、「話題」「主張」「根拠」の3観点を理解する、②第4の観点である「論拠」を理解する、③①②を基に、自身の主張の構築及び議論ができるようにするという流れで、単元を進める。特に②③の論拠についての理解と活用を授業の焦点とする。

*「論拠」とは・・・「トゥールミンの議論モデル」における、根拠（事実）と主張をつなげる要素。各人の価値観、信条などがそれに当たる。例えば「昨日カレーを食べたから」という根拠から「今日はカレー以外を食べよう」という主張が導かれるのは、「同じものを連続で食べるべきではない」という論拠が根拠と主張をつなげているためである。したがって、議論の中でお互いの主張を正確に理解するためには、根拠だけでなく、論拠も共有する必要がある。また、論拠の違いは主張の違いに直結するため、グループ内で一つの結論を出そうとする場合、先に論拠を統一しておく必要がある（『議論のレッスン』福沢一吉 NHK出版 2002）。

2 指導目標

(1) 単元の目標

- ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。（〔知識及び技能〕(2)ア）
- ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。（〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)オ）

(2) 言語活動

ア 言語活動

論拠を使った議論

イ 言語活動のねらい

お互いの論拠を明確にしながら、グループ内の論拠を統一し、そこからグループとしての結論を導く過程を実際の議論の中で体験する。

(3) 教材

ア 教材 「季節の言葉と出会う」 黛まどか（『新編国語総合』大修館書店）

イ 教材観

- ・「論拠」を説明するための教材として扱い、内容に深く踏み込むことはしない。
- ・話題・主張・根拠・論拠が明確であるため、要旨の整理の練習がしやすく、論拠も説明しやすい。

(4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

- ・自分の意見を主張する。(主体的)
- ・実際の議論の中で、議論の方法を学ぶ。(対話的)
- ・「論拠」というふだん意識されない要素を知ったことをきっかけに、論理的な議論をするための他の要素(反証・裏付け・限定など)への関心をもつ。(深い学び)

3 評価

(1) 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現 (話す・聞く能力)	主体的に学習に取り組む態度
主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	論拠の概念を理解し、議論の中で使いこなせるように粘り強く努力している。

(2) 評価方法

ア 知識及び技能

ワークシートB, 定期考査

イ 思考力, 判断力, 表現力等(話す・聞く能力)

議論終了時の振り返り(ワークシートC・D)

*ワークシートDで、自身とグループの主張・論拠を再現させる。それがグループの議論の記録(ワークシートC)と一致しているかを確認する。また「根拠」「論拠」「主張」をつなげて説明させ、それぞれのつながりを理解して議論していたかを確認する。

	評価A	評価B	評価C
グループ内で論拠を共有・統一し、それに基づいて、根拠からグループの主張を導くことができる。	自身とグループの論拠と主張を再現でき、根拠・論拠・主張のつながりを説明できる。	自身とグループの論拠と主張を再現できる。	自身とグループの論拠と主張のうち幾つかは再現できる。

ウ 主体的に学習に取り組む態度 毎時間の振り返り(感想文)

	評価A	評価B	評価C
論拠を理解し、使いこなせるようになるために、努力しようという意志がある。	論拠について自身の達成度を把握し、その上で今後どうしていきたいか考えている。	論拠について自身の達成度を把握できている。	自身の達成度を把握しようとしている。

4 単元の指導計画(配当4時間)

次/時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法 *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (2時間)	①「季節の言葉と出会う」の内容を「話題」「主張」「根拠」の3観点で整理する(ワークシートA)。 ②①を使い、「論拠」について説明する。	①3観点及び論拠を理解させることが授業の目的なので、本文の内容説明は、最低限に抑える。 ②内容説明が不十分でも情報の整理ができるように、ワークシートにヒントを書いておく。	◇知識及び技能 ◆定期考査 *机間指導, 添削

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法 *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第2次 (1時間)	①「〇〇高校のスマートフォン使用のルールについて」という話題で、論拠と主張を考えて、各自まとめる(ワークシートB)。	①これを使い、次回、議論をすることを説明する。	◇思考力、判断力、表現力等 ◆ワークシートB *机間指導、添削
第3次 (1時間)	①議論の趣旨について再度確認する。 ②グループに分かれ、議論を行う(ワークシートC)。 ③議論終了後、振り返りを行う(ワークシートD)。	①「主張の論拠を明確にすること」と「グループ内で論拠を統一すること」が重要であることを説明する。 ②グループはワークシートBを参考に、論拠や主張の異なる者で編成する。	◇主体的に学習に取り組む態度 ◆ワークシートC ワークシートD *机間指導

5 学習活動の実際

今回は「話すこと・聞くこと」授業として、論拠の理解と議論における実践を行い、授業の目標は達成できたと考える。論拠の理解については、生徒全員が自身の論拠を適切に構築できていた。また、論拠を使った議論については、A評価とB評価の割合が半分ずつという結果であり、全員が論拠を意識した議論を行えたと考えてよいだろう。

6 研究の成果と課題

(1) 「現代の国語」について

現代の国語において文章教材は、特定の知識や技能を習得するための“例文”になる。したがって、本文の内容よりも、扱いやすさ(論理の明快さ、適度な長さなど)の方が重要になる。

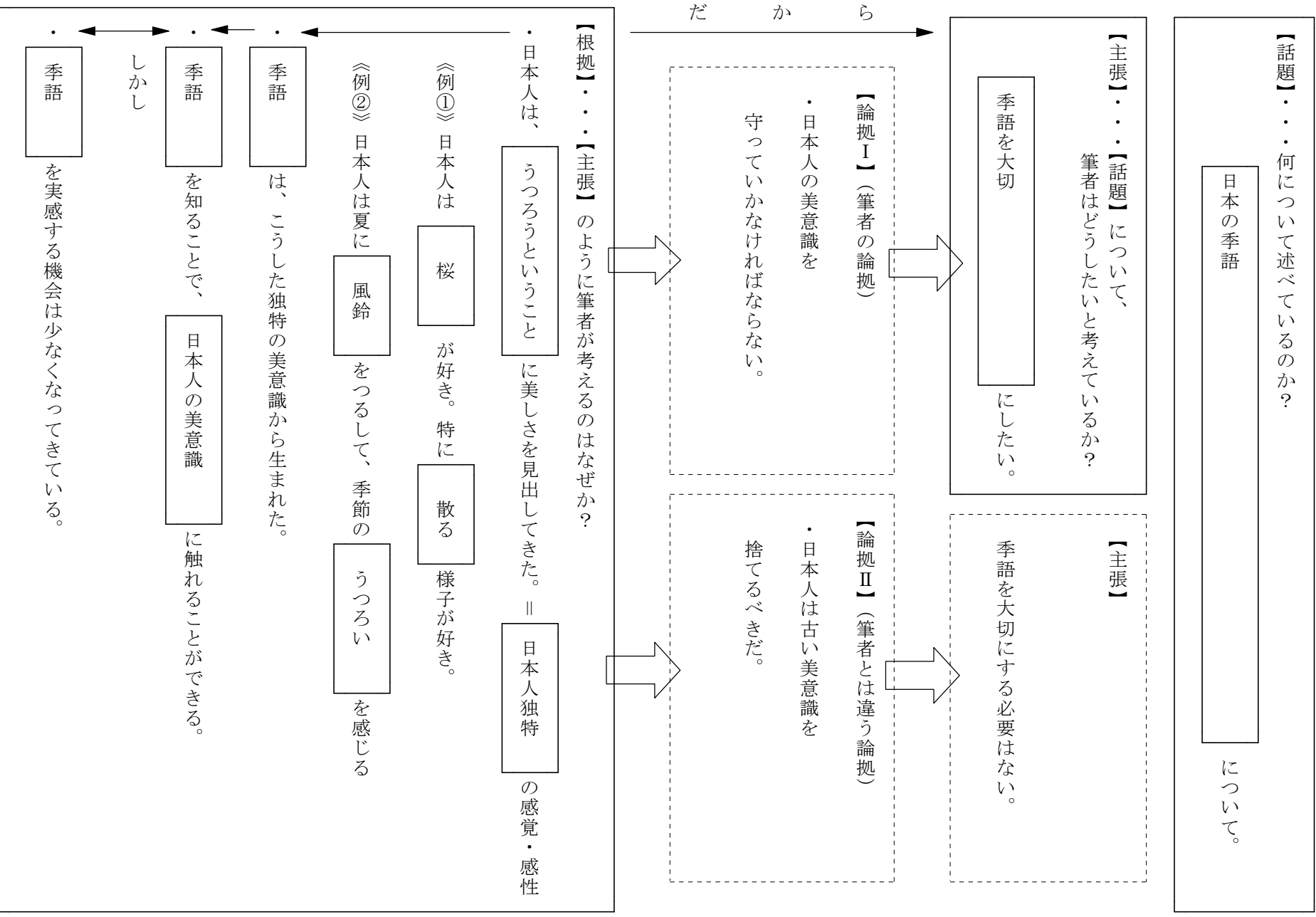
(2) 「話すこと・聞くこと」の評価について

特定の枠組み(今回の授業では「論拠の統一」)を使った「話すこと・聞くこと」の活動は、話合いの記録とその後の再現の一致を見ることで評価可能である。また、より高度な事柄を評価する場合には、話合いの中での論理の流れも再現させるとよい。

(3) 「論拠」について

一部、「論拠」と「根拠」を混同してしまう生徒もいた。原因として、「論拠」に比べ、「根拠」の定義をあまり徹底していなかったことや、そもそも「論拠」という言葉自体が分かりにくかったことが考えられる。専門用語にこだわらず、初めから、「論拠→価値観・信条」「根拠→事実」というふうに言い換えておくとよい。

*本文の内容を、「話題」「主張」「根拠」の3つに整理してみよう。



議論に向けて、自分の意見を整理しよう

【話題】○○高校のスマートフォン使用のルールは適当か？

【主張】だから、幸田高校のスマートフォン使用のルールは、

- ① 適当だ。
- ② 不適當だ。
- ③ どちらともいえない。

【論拠】・・・その人の価値観・信条（べきだ、〜が大切だ、〜はずだ）

価値観・信条 くむあるべきだ

理由

裏付け

※書けたらでよい

・・・スマートフォンについて、大切だと思ふことは？（複数可）

・すぐに電話に出られるようにするべきだ。

・家族からの急な連絡はすぐに受け取りたいから。

・家で調べることを忘れてしまつたときにその場で早く調べられるから。

・・・証拠となるもの（実体験、データ、事実）

・祖父の死に目立ち会えなかつたから。

<p>・すぐ電話に出られるようにするべきだ。</p> <p>・家族からの急な連絡はすぐに受け取りたいから。</p>	<p>・家で調べることを忘れてしまつたときにその場で早く調べられるから。</p>	<p>・・・証拠となるもの（実体験、データ、事実）</p> <p>・祖父の死に目立ち会えなかつたから。</p>
---	--	---

【根拠】・・・共有する事実

幸田高校のルール・・・高校の敷地内では、電源を切り、使用してはならない。

*自己評価

評価内容	A評価	B評価	C評価
<p>論拠を理解し、適切に使うこと。</p>	<p>論拠となる価値観と、その理由を適切に書くことができ、裏付けもすることができた。</p>	<p>論拠となる価値観と、その理由を適切に書くことができた。</p>	<p>論拠となる価値観を適切に書くことができた。</p>

【根拠】 幸田高校のルール・・・高校の敷地内では、電源を切り、使用してはならない。	【論拠】 スマホが邪魔	【価値観】	【主張】 ① 適当 ② 不適当 ③ どちらでもない
	【論拠】 調べる学習の 時があり	【価値観】	【主張】 ① 適当 ② 不適当 ③ どちらでもない
	【論拠】 勉強に集中 出来ないと話 が通じない	【価値観】	【主張】 ① 適当 ② 不適当 ③ どちらでもない
	【論拠】 調べる学習の 時があり	【価値観】	【主張】 ① 適当 ② 不適当 ③ どちらでもない
理由・裏付け 音がなると 気が散る 大事な連絡以外 に使うことはない スマホは連絡を とる時は役に 立つ	理由・裏付け スマホが邪魔 な気がしたり 手取りがたり した時に使った 時間がもたない	理由・裏付け 勉強に集中 出来ないと話 が通じない 家族との会話も 減ってしまう	理由・裏付け スマホが邪魔 な気がしたり 大事な時に時間 を使ってしまうから

【グループで論拠を統一しよう】
*話し合った内容を記録する

① 適当
② 不適当
③ どちらでもない

【グループの論拠】

【理由・裏付け】

① スマホが邪魔な作用
しなれない
② 調べる時は使える
ようにするべきだ

① 周りに迷惑がかかっ
てしまう
② 命がけの時
に
おどろかすから

【グループの主張】

*話し合った内容を記録する

① 適当
② 不適当
③ どちらでもない

【グループの主張を決めよう】
*話し合った内容を記録する

調べる学習の時に使いたくないけど、その時に
通知音やゲームやラインをしてしまうと
めんどくさい、勉強に集中出来なくなる

【グループの主張を決めよう】
*話し合った内容を記録する

① 適当
② 不適当
③ どちらでもない

調べる学習の時に使いたくないけど、その時に
通知音やゲームやラインをしてしまうと
めんどくさい、勉強に集中出来なくなる

議論の振り返り

A組

【ワークシートD】

【話題】○○高校のスマートフォン使用のルールは適当か？

【自分の主張】

- ① 適当
- ② 不適当
- ③ どちらでもない

【グループの主張】

- ① 適当
- ② 不適当
- ③ どちらでもない

【自分の論拠】

価値観・信条

なるべく使わないほうがいい

【グループの論拠】

価値観・信条

学校には使用しない

理由・裏付け

〇調べる
Xゲーム

理由・裏付け

スマホが近くにあると
授業に集中できなくなる。

【根拠】

幸田高校のルール・・・高校の敷地内では、電源を切り、使用してはならない。

*グループの【話題】【主張】【論拠】【根拠】をつなげて文章にしよう。

幸田高校のスマートフォンの使用のルールは適当かということに
ついて僕は、適当だと思います。理由は、ルールには、高校の敷地内
では、電源を切り、使用してはならないと書いてあり、僕自身
も、使用することにより、授業に集中できなくなってしまうと
思ったからです。